

日本あちこち河川遡行記（第274回）

奈良1-6.曾我川（その1）後半 令和1年6月28日（金）晴のち曇り

【続き】

保橋を渡り右岸側を南に向かう。土手道は少し左に緩やかに曲がり始めると二次支流の「高田川」が右側から合流してくる。いよいよ川の過密地帯に入るのだ。合流点の奥には奈良県の第二浄化センターが広がっている。本流と佐保川の合流点の再来だ。



14.「高田川」（右）が曾我川に合流

南からの流れが南東からとなり進むと左岸側は「広陵町」となる。すぐに次の二次支流の「城川」がこれも右側から合流してくる。ここまで二つの孫は南から北に真っすぐ流れているので、子は孫に遠慮して大きく東に迫いやられている。

合流点を過ぎ次の橋に向かうと国と奈良県との管理境界標識が立っている。向こうの城川にも同じ看板が有る。



15.続いて「城川」が右から合流



16.合流点のすぐ上流が管理境

曾我川に架かる町道橋を見てついでに直ぐ横の「城川」に架かる県道108号

の「桜橋」を見てUターンし、曾我川の108号の「新小柳橋」を見る。県道に
広陵町のマンホールが有ったのでカシャ。絵柄は竹で、「かぐや姫のまち」と
字も在る。讃岐の長尾町にもかぐや姫が有ったぞ！

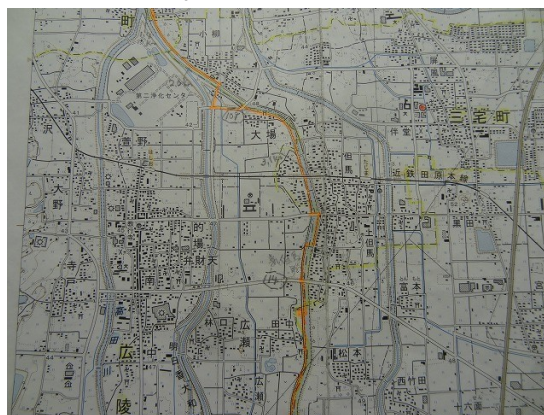
県道沿いには標識風のかぐや姫の案内が有る。



17. 広陵町はかぐや姫の町？

18. 県道にかぐや姫がお出まし

今度は左岸側の土手道を南東に進む。やがて道と川はゆっくりと南からの流
れとなり、いよいよ「高田川」、「城川」、「曾我川」そして同じ一次支流の
「飛鳥川」と4川の揃い踏みとなる。ここから約3kmの間は見事に並走してい
る。その各川の間隔は500m。こんな姿は全国でここだけだろう。この辺りの
人は川の字をIIIIと書くのだろう。



19. 4本の川が3キロにわたって東西に並ぶのはここだけ

川の東側は「三宅町」と変わる。三宅町には「但馬」と「石見」という地名
が有る。大和朝廷が遠征した時に連れて来た人達が住んでいたのかと思っ

まう。

土手下に突然恐竜が現れる。看板、解説板などを造る会社が今風に恐竜それも「ティラノサウルス」を制作したようだ。周りの風景とのアンバランスが可笑的い。



20.大和にティラノサウルス出現！

やがて東西に大和平野を横切る近鉄田原本線の橋に着く。橋は塗り替えが最近施工されたようで、中路2主桁橋の中の線路の枕木は真っ新である。桁内は広く車両限界の外側には点検員などが歩けるスペースも確保されている。ここを歩きたくなる誘惑が起こるが「通行禁止」の看板がそれを抑えている。



21.田原本線の橋には真っ新たな枕木が

天気予報では曇りであったが、晴で気温はどんどん上がる。日陰の無い道を黙々と歩くがこれなら日傘を持ってくるのだった。対岸が「田原本町」に変わる。それにしても小さな町のオンパレードだ。それぞれ長い歴史があり、おいそれと他人とは一緒になれないのだろう。

やがて土手下のゴルフ練習場が現れたので給水と休憩を兼ねて入り口に向か。平日の昼の炎天下、客はだれも居ない。10分ほど休んで土手に戻る。



22.夏の昼の打ちっぱなし場は誰も居ず

西の彼方の件の山の左から奥さんがオズオズと顔を出してきた。飛鳥・藤原地区に有った都を奈良に移した理由が分かった！美人の奥さんが見える飛鳥・藤原から見えない奈良に移したのだ。



23.雌岳がオズオズと顔を出してきた

土手の直ぐ横に大きな木が茂り日陰が出来ている。仏さまが現れた！ありがたや、ありがたや。



24.炎天の土手道に仏が現れる

百済地区に来ると西の彼方に「百済寺」の三重塔が見える。地名と言いその

姿も大和らしい。二上山も雌雄が揃って見える所までやって来た



25.西の彼方に「百済寺」の三重塔が



26.やっと雌雄が揃った二上山

「曾根寺橋」の東詰めに来るとこの先工事中の看板があるが柵は無い。車は通行不可でも人は通れるところがこれまで多く有ったのでそのまま南に進む。1kmほど進むと土手の上に重機が鎮座しのみ面の掘削をしている。こりゃ通れそうもないと判断し土手下に向かう。JV事務所から所長らしき人が出て来た。ここまでやって来た理由を言い、看板に全面通行止めと工事位置を書いてほしかったと言い、田んぼのあぜ道に入り迂回する。土手道を歩く人はいないので車のことしか考えていないケースが多い。

大きく迂回し橿原市の中曾司町の古い街並みの中を進む。県道 105 号に到着し西の川に向かう。川に架かる橋の名前が難読で「磐余橋」である。直ぐ東の神社名が磐余神社である。



27.県道 105 号の「磐余橋」は「いわれ」と読む難読橋だ

今日最後の近鉄大阪線の橋を見て近くの「松塚」駅に向かう。空が暗くなり雨が降り出した。駅近くで降るとはラッキー！駅は橋の直ぐ西に在り駅舎が独特のミニ駅である。どこか讃岐の琴電の駅に似ているぞ。



28. 琴電を想い出す近鉄大阪線の「松塚」駅

ここまでペットボトルの飲み物を3本も空けてしまった。鶴橋、大阪と乗り継ぎ「イカリ」で暫し錨を下ろし買い物をして新大阪駅に向かう。駅付近通行規制にもかかわらず何時もの品ぞろえであった。

本日の歩行距離：11.4km。調査した橋の数：19。

総歩行距離：10,479.2km。総調査橋数：13,366。

使用した1/25,000地形図：「信貴山」（和歌山5号-1）、「大和郡山」（和歌山1号-3）、「桜井」（和歌山1号-4）